

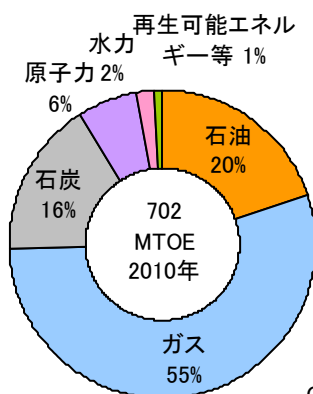
2-14 ロシア

1. サマリー

1. エネルギー事情

- (1) 一次エネルギー総供給量 (2010年) : 702 百万 TOE (日本の 1.53 倍)
- (2) 一人当たり一次エネルギー供給量 (2010年) : 4.95 TOE (日本の 1.37 倍)
- (3) エネルギー自給率 (2010年) : 184%
- (4) エネルギー起源 CO₂ 排出量 (2010年) : 1,581.4 百万 CO₂ 換算 ton (日本の 1.4 倍)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO₂ 排出量 (2010年) : 11.2 CO₂ 換算 ton (日本の 1.2 倍)
- (6) エネルギー別可採年数 (2011年末) : 原油 23.5 年、天然ガス 73.5 年、石炭 471 年

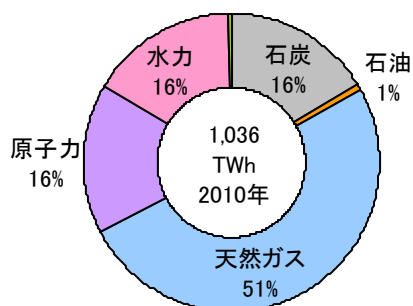
一次エネルギー供給構成 (2010年)



COUNTRY: Russian Federation

(出所) IEA, Energy Balances of non-OECD countries 2012 Edition

発電電力量構成 (2010年)



COUNTRY: Russian Federation

(出所) IEA, Energy Balances of non-OECD countries 2012 Edition

2. エネルギー政策のポイント

- 2012年12月現在、エネルギー省が石油、ガス、石炭、電力（原子力を除く）産業を管轄する。地下資源の管理・入札等は天然資源・環境省の管轄となっている。なお、連邦原子力エネルギー庁は2007年12月に総合原子力企業「連邦原子力エネルギー公社（Rosatom）」に改編されている。

(2) 基本政策

- 石油・ガス産業はロシア経済を支える主要産業であると共に主要財源である。Medvedev政権はPutin前政権と同様、石油・ガス・原子力をエネルギー外交展開上の重要手段として位置付けている。他方、エネルギー資源部門偏重型の経済構造を克服してロシア経済の高度化・エネルギー資源輸出先の多様化を目指す考えである。また、省エネ推進によるエネルギー効率の大幅な改善が、国家エネルギー戦略上の主軸の一つとなっている。原油・天然ガスの輸出先について、欧州市場への高い依存度を徐々に下げる一方で、アジア太平洋市場へと多様化を図ることが長期的な課題である。

(3) 最近の動向

- Rosneftは海外メジャーとの開発協力を次々と発表した。2012年4月に、米ExxonMobilと北極海Karaと黒海の大陸棚開発を進めるJV2社を設立する合意文書に署名した他、伊EniとロシアBarents海Fedynsky 鉱区・Central Barents 鉱区を採掘するJV設立ならびに黒海の共同採掘で合意した。さらに同年5月、ノルウェーStatoilとロシア領北極海ならびにオホーツク海での資源開発を進めるJV設立に関する合意文書に署名した。同年6月、Rosneft、Eni、StatoilはJV設立に関する文書に署名済み。
- Gazpromは2012年10月、Chayanda 鉱区およびYakutia-Khabarovsk-Vladivostok ガスP/LのFIDを承認した。Chayanda 鉱区の原油・ガス・コンデンセート埋蔵量は1.2Tcm、可採埋蔵量は7,910万ton、2014年に原油生産開始、2017年にガス生産開始を見込む。P/Lの全長は3,200km、輸送能力は最大61Bcm、稼働開始は2017年を予定。
- ESPO パイプライン建設プロジェクトの支線（Skovorodino から太平洋側のKozmino 港まで）が2012年12月25日に正式に稼働開始した。

3. 日本とのエネルギー分野における関係

- 2011年、日本のロシアからの原油輸入量は871万klであった。2008年817万kl、2009年940万kl、2010年1,543万klと輸入拡大基調であったが、2011年は減少に転じた。
- Sakhalin Energyは2012年5月、日本からの求めに応じ、同国向けLNG追加供給を2012年も継続して行う計画を明らかにした。
- 2012年5月、日露原子力協定が発効した。日本はロシアへの原子力関連技術の供与が可能となる他、ロシア側に原子力発電所の燃料となるウランの濃縮を委託できる。

2. 主要エネルギー指標

(2010年)

(1)	一次エネルギー供給量	702 MTOE
(2)	一人当たりの一次エネルギー供給	4.95 TOE/人
(3)	GDP 当たりの一次エネルギー供給	0.77 TOE/千\$
(4)	エネルギー自給率	184 %
(5)	エネルギー起源 CO ₂ 排出量	1,581 百万 CO ₂ 換算 ton
(6)	一人当たりエネルギー起源 CO ₂ 排出量	11.16 CO ₂ 換算 ton/人
(7)	一次エネルギー供給構成	
	石炭	16 %
	石油	20 %
	ガス	55 %
	原子力	6 %
	水力	2 %
	再生可能エネルギー等	1 %
(8)	エネルギーの輸入依存度	-84 %
(9)	石油の輸入依存度	-264 %
(10)	輸入原油の中東依存度	0 %
(11)	原油輸入先	
	第1位	—
	第2位	—
	第3位	—

(出所) (1)～(4)及び(7)～(9) : IEA, Energy Balances of non-OECD countries 2012 Edition

(5)～(6) は IEA, CO₂ Emissions from Fuel Combustion, 2012 Edition

(10)～(11) は Blackwell - 「World Oil Trade : An Annual Analysis and Statistical Review of International Oil Movements」 September 2012.